

プログラム名	食育体験プログラム :生産(生産者と交流しよう)~流通(販売体験をしよう) ~消費(買い物体験をしよう)~廃棄(生ごみが堆肥になるよ)	
実施団体	○団体名:仙台いぐね研究会 ○代表者名:小金澤孝昭 ○電話:022-214-3386 ○FAX:022-214-3386 ○住所:仙台市青葉区荒巻字青葉149 宮城教育大学小金澤研究室気付 ○E-Mail:t-koga@staff.miyakyo-u.ac.jp	
対象者	小学3~6年生	
対象人数	100名	
学習場所	仙台市市民広場・朝市夕市ネットワーク合同市会場	
学習時間	4時間(10:00~14:00、昼ご飯提供可能)	
実施時期	6月・7月・9月・10月・11月の第3木曜日	
準備物品・費用等 (講師謝金を除く)	実施団体側	プログラムテキスト、給食(汁物)、テント、生ごみ乾燥機、電源
	利用者側	市民広場までの交通費、傷害保険料、買い物体験用小遣い 汁物材料費実費(200円程度)、お弁当(おにぎり)、箸、お椀
事前打ち合わせ	2週間前までに打ち合せ	
効果的な学習段階	総合的な学習の時間に最適です。各小学校の年間計画に合わせて活用してください。	

学習概要	1. 学習のねらい		
	<p>食べ物の、生産~流通~消費~廃棄~生産~という循環のしくみを、具体的に見て気づいて体験・実感する。①生産では、どのような工夫をしているのか生産者に直接質問できる。②流通は、自分で販売体験をする。③消費は、自分で買い物体験して農水産物を選ぶ力を養う。④生ごみリサイクルプロジェクト体験し廃棄物が堆肥になり、農産物に循環することが分かる。このことを通じて、食育の意味やフードマイレージ(地産地消)について考えるきっかけを作ることが可能です。</p>		
	2. 学習する内容		3. 学習のポイント
	<p>(1) 開校式:学生からの説明</p>  <p>(3) 家から持ってきた乾燥生ゴミを野菜に交換</p>  <p>(5) 生産者への質問タイム</p> 	<p>(2) 生産者から合同市の説明</p>  <p>(4) 買い物体験タイム</p>  <p>(6) 販売体験タイム いらっしゃい!!</p> 	<p>◆時間割ごとのポイントと気づきについて説明します。</p> <p>(1) 開校式</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学生スタッフの紹介・グループで行動するので、各グループを担当する学生の自己紹介を行う。 ・教育学部の学生が、先生体験をしながら子どもたちと交流します。 ・本日の全体のスケジュールと体験する内容を説明します。 <p>きちんと聞いておかないと、体験の意味がわからなくなるよ!!</p> <p>ご心配なく、学生スタッフが各時間の目標をその都度説明します。</p> <p>(2) 生産者からの説明</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本日の参加生産者の説明(どの地域から来ているのか) ・本日の農水産物の旬について説明 ・農水産物の季節性を実感してほしい。 <p>◆子どもたちに旬への気づき。</p>

(1) 開校式 (10:00~10:20)

このプログラムの目的とスケジュールを説明するとともに、グループ行動で体験学習をすることをアナウンスする。各グループには各担当の学生スタッフ（宮城教育大学の教員志望の学生）が付くことを説明し自己紹介する。学生スタッフは各時間の意味をアナウンスし、生徒たちの気づきの手助けをする。

(2) 生産者からの説明 (10:20~30)

朝市・夕市ネットワークの担当者が合同市の内容と特徴（どんな生産者が集まっているのか？朝市ネットはいつから何のために生まれたのか？）をアナウンスする。また合同市はお仕事の場所であることを強調する。

(3) 各自が家庭から持ってきた乾燥生ごみを野菜と交換する (10:30~50)

1kg分の乾燥生ごみを用意する。（学校に学校給食用の乾燥機がある場合は、その生ごみを持って来る。それが無い場合は、生ごみの水気を良く絞ってもってくること。）この時間で紙芝居を使って学生スタッフが生ごみリサイクルの説明をする（紙芝居・ほねっち・かぶっち物語）。

(4) 買い物体験タイム (10:50~11:30)

合同市のお店を回って、お金を出して自分が買いたいものを、よくえらんで、お店の人とよく話をして買い物体験する。（小遣いの金額は先生が指導してください。◆先生が買いすぎる場合がありますのでご注意ください）合同市では、農産物、水産物、きのこ、花、加工農産物（お餅・豆腐・団子お味噌）などがあります。

(5) 生産者への質問タイム (11:30~12:20)

事前に6人程度の生産者をお願いしておりますので、しっかり質問をして生産者の工夫を聞いてください。

■お弁当タイム (12:20~13:00)

各月によって異なった汁物を提供できます。マイはし、マイおわんをお持ちください。

(6) 販売体験タイム (13:00~13:30)

今度は、農水産物を売る立場を体験してください。お金のやり取りに注意してください。

■閉校式 (13:30~14:00)

本日の体験学習の確認：食育ビンゴ（クイズ）でまとめをしよう。

・合同市は、生産者にとって仕事の場所であることの説明 10:00~11:00は各売り場ともお得意さんが集中する時間帯。仕事の邪魔をしないことの注意。

◆合同市は、生産者にとって仕事場であることの気づき。

(3) 各自が家庭から持ってきた乾燥生ごみを野菜と交換する。ここでは、生ごみが堆肥になることを分かってもらいたいので、野菜と生ごみの交換プロジェクトを実施しています。このプロジェクトについて学生から説明があります。

◆生ごみが堆肥になり、野菜の栄養になることに気づき。

(4) 買い物体験タイム

自分の小遣いで農水産物を見て買い物をする。ここで改めて、農水産物の旬・種類を確認する。

◆気がついたことはメモしてヒアリングで聞くように学生スタッフがアドバイスする。

◆生産者の特徴を気づきやすくするために、各生産者の売り場に、案内板を設置しておくので、どこから来て何を売っているかがわかる。

(5) 生産者への質問タイム

グループで、いつ、どこで、誰が、何をどのようになぜ作っているのか（質問の5W 1H）を聞いてみよう。

◆安全安心な農産物を生産する工夫に気づこう。

(6) 販売体験タイム

今度は、売る側に立ってみよう。

◆農水産物を売るための工夫や苦勞を体験して、気づく。

4. 学習のまとめ

食べ物の生産（生産者への質問）から流通（販売体験）、消費（買い物体験）、廃棄（生ごみリサイクル体験）のすべてのプロセスを体験して、食べ物の特徴を理解することができたでしょうか。

とくに気づいてほしいことは、①生産者と消費者が直接売買すると食べ物の安全と安心がよくわかること。②宮城県内の食べ物を食べるとフードマイレージが低くなり、エネルギー消費が少なく地球に優しいことがわかること。③生産する人たちをみんなまで応援しないと、安全・安心でおいしいものが手に入らないこと。④生産者は、環境にやさしいつくり方の工夫をしていること。

最後に、学生スタッフと楽しく体験できたでしょうか？では、さようなら。またきてくださいね。

追加・変更できる学習内容

段ボール箱でつくる生ごみ堆肥のつくり方の講習会を行うことも可能です。この場合、担当の仙台生ごみリサイクルネットワークに依頼するため、事前の連絡が必要です。

事前・事後学習についての助言

事前学習のモデルとして、広告チラシで野菜のフードマイレージを計算する授業プログラム（パンフレット）があります。このプログラムを参考にして事前学習をしてください。また事後学習では、子ども達の感想文や調べ活動の発表会を実施していただくと効果的です。感想文は、生産者が喜びますので実施してください。また発表会では、日程が合えば助言者として教員（宮城教育大学教授）が出前授業を行います。

雨天時の学習内容

雨天でも合同市は開催していますので、雨天でも実行します。生徒達の待機用のテントを用意することも可能です。

プログラムの詳細

<http://www.feel-sendai.jp/program/shokuiku.html>